



牧之内 洋和 *hirokazu makinouchi*

株式会社 電通西日本 広島支社 ソリューション業務推進部
(1996年3月経済学部卒業)

商品はカタチのないもの。
だから楽しいし、難しい。

「ソリューション業務推進部」の仕事とは？

簡単に言えば「企業の課題に対する解決方法を提案する」という仕事です。実は「ソリューション」という言葉が広告業界で使われるようになったのはここ2、3年のこと。それまでは「媒体部」「クリエイティブ部」「プロモーション部」で分業していたのですが、それではなかなか課題の解決につながらない。そこで、解決方法全体をプランニングする部ができたのです。

「仕事のおもしろいところと大変なところを教えてください。」

メーカーなどとは違って「形がないもの売る」ので、自分自身の魅力や自分で考えて創り上げたものを売り込んでいくことになります。そこがすごく楽しいですね。でも逆に、毎日何かを創り出して



くプレッシャーが常にあります。現実とは道で結構しんどい仕事です。広告業界に憧れている学生さんも多いと思いますが、いつも芸能人に会えるとかCMを作れるとか、そんなことはないですよ(笑)。

どんな仕事でも、外から見るイメージと実際に中に入ってからとは随分違います。動きはじめてから戸惑うことのないよう、学生の間はそのギャップを埋める努力をするべきですね。就職活動も、外側からのイメージにこだわらず、知らない業種や興味のない会社も含めて、真面目にたくさんやってみたほうがいいと思います。「自分が企業を面接するんだ」くらいの気持ちで。



「今後の目標と学生へのメッセージを聞かせてください。」

広告の世界は動きが激しいので、日々勉強を続けることが大事です。例えば、映画を観る、街を歩いて今の流行を知るなど、時代の流れをいち早くキャッチできるように日常生活の中でも心がけています。将来は、広告の中である特定の分野のスペシャリストになるというよりは、各分野を広く理解した上でコミュニケーション戦略全体をプランニングできるようになりたい。また、広島から全国へ発信する広告を作ったり、広島のクライアントを僕らの力で大きくし、全国規模で事業展開できる、いわゆるナショナルクライアントに育てていきたいです。それが今の会社の使命という気がしています。

学生時代は「時間がない」とは言っても、社会人と比べればたっぷりあるはずなんです。特にこの業界はオフが少ないので、あの頃の自由な時間に、もっといろいろなことを

しておけばよかったと後悔しています。皆さんには、学校の勉強以外にもさまざまなことに興味を持って、チャレンジしてほしいですね。それと何か趣味を見つけておいたほうがいい。僕は大学時代にサークルでやっていたバスケットを今も続けていますが、気分転換にすごく役立っていますよ。

社会の第一線で活躍している先輩たちの職場を訪ねて、突撃インタビュー。仕事のことから学生時代に身に付けておくべきことはまたプライベートの話まで。私たち学生の素朴な疑問・質問にお答えいただきました。

羅針盤

OB&OG紹介



「東広島市役所に就職しようと思った理由は？」

この町の将来性に期待したからです。もともと公務員になって、自分の人生に関わってきたところに恩返しをしたいという思いがありました。出身の佐賀県に帰ることも考えましたが、大学4年間を過ごした西条という町に魅力を感じ、ここで一生を過ごしてみようと思ったんです。



不安を感じることも多いはず。覚えたての日本語を私たちに試してみようとする方もいますので、日本人に対して悪い印象を持たれないよう、にこやかな対応を心がけています。

市民課に配属されて2年。自分が担当する仕事について掘り下げて勉強することはもちろんですが、一番重要なのは、課全体の仕事の流れを幅広く把握できるようになること。市民課の中で必要とされる人間になるために日々努力しています。

「私生活での目標を教えてください。」

運動不足なのでジムに通って解消したいですね。実は去年も試みたのですが、2カ月でやめてしまいました。仕事をしていると、勉強や趣味など自分のことに時間を割こうとしても、どちらかにしわ寄せが来てしまうと思うんです。勉強



池田 美樹 *Miki Ikeda*

東広島市役所生活環境部市民課 (2001年3月法学部卒業)

「ちょっとした心配りから、市民の方々との信頼関係が生まれる。」

「現在の仕事内容と心がけていることは？」

教育委員会の仕事を3年した後、現在は市民課で外国人登録と戸籍届出の受理事務を担当しています。市民の方と接する仕事は、反応がダイレクトに返ってくるので、それが励みになりますし、逆に落ち込むこともあります。対応する時には、いろいろと気をつけていますね。例えば「こんにちは。以前は〇〇でしたよね」と一言添えることで、市民の方も「覚えてくれていたんだ」と喜んでくれるかもしれない。小さな心配りから信頼関係が生まれると思うんです。わざわざ「引越します」と報告に来てくれる方もいて、そんな時はすごく嬉しいです。

広大の留学生もよく来られますよ。来日して間もない方は、

するためだけに4年間という時間が確保されている学生時代は、本当に贅沢。単位を取ることも大切ですが、興味のあることには手を出しておいたほうがいいと思います。絶対に自分にとってプラスになるし、人間の器も広がってくると思うから。



取材を終えて



終始緊張しっぱなしの初取材。お話を伺って、自分自身を振り返ると「忙しい」という一言でいろいろなチャンスを逃しているかもしれないと感じました。同時に、今打ち込めるものがあることの大切さを再確認できたような気がします。社会人の方の生の声を聞くことで、自分の学生生活を客観的に見ることができ、貴重な体験になりました。

取材・記事 / 教育学部4年 中井 俊之



私たちが生活する上で欠かせない、さまざまな業務を取り扱う市役所という場。常に市民へしっかりと目を向けながら、同時に自らをも見つめ、向上心を持ち続けて仕事に臨んでおられる池田さんの姿が、強く印象に残っています。「日々努力」という仕事に対する一生懸命で前向きな姿勢から、私も常に向上心を絶やすことなく、これからいろいろな物事にチャレンジしていきたいと感じました。

取材・記事 / 教育学部3年 宮永 静